

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0260

(注)本稿は 2013 年 3 月 25 日から 4 月 5 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.4.5

前田 高行

格差の大きい産油国と非産油国—MENA(中東・北アフリカ)の「人間開発指数」(2013年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その11)

目次	頁
1. 「Human Development Report 2013」について	2
2. 2012年の MENA の国別 HDI	2
3. 2012年の国別ジェンダー不平等指数(GII)	3
4. 1980年～2012年の HDI の推移	4
5. 「アラブの春」前後の人間開発指数の変化	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第 11 回のランキングは、UNDP(国連開発計画)が毎年発表する世界各国の人間開発に関する報告書の最新版「Human Development Report 2013」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

1. 「Human Development Report 2013」について

UNDP の「Human Development Report 2013」(以下「HDR2013」)では、(1)187の国及び地域の人間開発指数(Human Development Index, HDI)の値と順位、(2)148の国と地域のジェンダー不平等指数(Gender Inequality Index, GII)が発表されている。

レポート全文(英文) : <http://hdr.undp.org/en/>

UNDP 東京事務所プレスリリース : <http://www.undp.or.jp/hdr/global/>

人間開発指数(HDI)

HDIとは、人間開発の3つの基本的な側面——健康で長生きできるかどうか、知識を得る機会があるかどうか、人間らしい生活を送れるかどうか——について、進歩の度合いを長期にわたって測定するための総合的な指標である。健康と長寿に関しては出生時平均余命を、知識を得る機会に関しては成人の平均就学年数(25歳以上の人が生涯を通じて受けた教育年数の平均)と、就学年齢児童の生涯予測就学年数(現在の年齢別就学率が変わらないと仮定した場合に、いま就学開始年齢の子供が生涯を通じて通算何年間の学校教育を受けるかを予測した数字)を基準にしている。人間らしい生活(生活水準)に関しては、2005年の米ドル建て購買力平価(PPP)に換算した1人当たり国民総所得(GNI)を基準に用いている。

ジェンダー不平等指数(GII)

「ジェンダー不平等指数(GII)」は、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)、エンパワーメント、そして経済活動への参加の3つの側面で、ジェンダーに基づく不平等がどの程度存在するかを表す指数である。リプロダクティブ・ヘルスの状況は、妊産婦死亡率と15-19歳の女性1000人当たりの出生数で測定する。エンパワーメントの状況は、立法府の議席に占める割合と中・高等教育への進学状況を基準とする。経済活動への参加状況は、労働市場への参加率で判断する。GIIは、従来の「ジェンダー開発指数」と「ジェンダー・エンパワーメント指数」に代わる指数として導入された。GIIは、3つの側面における男女の不平等により、人間開発のレベルがどの程度損なわれているかを明らかにするものである。

(MENAでHDIが最も高いイスラエルとこれに続くGCC諸国！)

2. 2012年のMENAの国別HDI

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/11-T01.pdf 参照)

MENAの中でHDIが最も高いのはイスラエルの0.900であり、世界順位も16位とかなり上位である。MENA2位以下はカタール(HDI 0.834、世界順位36位、以下同じ)、UAE(0.818、41位)、バハレーン(0.796、48位)、クウェイト(0.790、54位)、サウジアラビア(0.782、57位)とGCC各国がこれに続いている。Indexが0.800以上のイスラエル、カタール及びUAEの3カ国は高々度人間開発(VHHD)の国とされバハレーン、クウェイト、サウジアラビアと以下に述べるリビアからチュニジアまでのHDI0.710以上の国々は高度人間開発(HHD)とされている。

サウジアラビアについてMENA7位以下で世界順位100位以内の国の指数と世界順位は、リビア

(0.769、64位)、レバノン(0.745、72位)、イラン(0.742、76位)、オマーン(0.731、84位)、トルコ(0.722、90位)、アルジェリア(0.713、93位)、チュニジア(0.712、94位)である。VHHD3カ国およびHHD10カ国を合わせた13カ国が世界の上位グループに入っている。

これら13カ国以外の MENA 各国は世界順位が100位以下であり、中位人間開発(MHD)国、或いは低位人間開発(LHD)の範疇となる。このうち MHD グループに入るのがヨルダン(0.700、100位)、パレスチナ自治区(0.670、110位)、エジプト(0.662、112位)、シリア(0.648、116位)、モロッコ(0.591、130位)、イラク(0.590、131位)の5カ国1機関である。

イエメンは開発度が最も低い低度人間開発(LHD)グループに入っており、HDI は0.458、世界順位は186か国中の160位である。アラブ諸国の平均指数は0.652であり、全世界の平均指数0.694に比べ、アラブの人間開発指数は世界平均を下回っている。

なお HDI が世界で最も高いのはノルウェー(0.955)であり、最も低いのはニジェール(0.304)である。日本は HDI 0.912で世界10位にランク付けされている。米国は0.937、世界3位、中国は0.699、世界101位である。米国及び日本は VHHD(高々度人間開発)のグループであるが、中国はヨルダン(世界100位)よりも下位の中位人間開発(MHD)国である。

(人間開発度は高くても、男女不平等の格差が大きいカタール！)

3. 2012年の国別ジェンダー不平等指数(GII)

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/11-T02.pdf 参照)

ジェンダー不平等指数(GII)は、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)、エンパワーメント、そして経済活動への参加の3つの側面で、ジェンダーに基づく不平等がどの程度存在するかを表す指数である(第1項参照)。GIIがMENAで最も低い(つまり男女平等が最も進んでいる)国はイスラエルでGII指数は0.144、世界25位である。これに続いて世界50位以内に入っているのは、リビア(GII指数0.216、世界36位、以下同じ)、UAE(0.241、40位)、バハレーン(0.258、45位)、チュニジア(0.261、46位)及びクウェイト(0.274、47位)である。

これを人間開発指数(HDI、第2項)と比較すると、イスラエル、UAE、バハレーン、クウェイトなどはHDI、GIIの世界順位はほぼおなじであるが、リビア及びチュニジアは両者の順位が大きく異なっている。チュニジアの場合はHDI世界順位94位に対しGIIの世界順位は46位であり、リビアはHDIが世界64位に対してGIIは36位である。ともに人間開発指数が低いにも関わらず男女平等の程度が世界的にも高い水準にある。これに対してカタール、サウジアラビアなどは後述するようにHDIの世界順位が高いにもかかわらず、GIIの順位が100位以下と低い。GIIは女性の立法府、経済活動への参加の程度を算定基準としていることがこのような結果をもたらしていると考えられる。

GIIの世界順位が50位から100位までの国はオマーン(GII指数0.340、世界59位、以下同じ)、トルコ(0.366、68位)、アルジェリア(0.391、74位)、レバノン(0.433、78位)、モロッコ(0.444、84位)、ヨルダン(0.482、99位)の5カ国である。

GII 世界順位が100位以下の国はイラン(0.496、107位)、カタール(0.546、117位)、シリア(0.551、118位)、イラク(0.557、120位)、エジプト(0.590、126位)、サウジアラビア(0.662、145位)及びイエメン(0.747、148位)である。GII 指数は世界148カ国について算定されているためイエメンは全世界で不平等指数が最も高い国である。

ジェンダー不平等指数(GII)世界100位以下の国について人間開発指数(HDI)と比べると、エジプト、シリア、イラク、イエメン等は HDI も100位以下である。これに対してカタールとサウジアラビアの2カ国は HDI の世界順位がそれぞれ36位と57位でありジェンダーの不平等さが際立っている。エジプト、イラクなどは妊産婦死亡率、進学状況の低さが反映したものであり、カタールとサウジアラビアの場合は国政や労働市場への参加率の低さが反映したものと考えられる。カタールはアルジャジーラ放送や欧米大学の誘致、モーザ首長妃の活躍など一見進歩的で女性重視の印象があるにもかかわらず実態的には男女格差はかなり大きいことがわかる。

なおアラブ諸国の平均 GII は0.555であり、全世界平均の0.463に比べかなり見劣りがする。因みに日本の GII は0.131で世界では21位である。これに対し米国の世界順位は42位、中国は35位である。米国の GII 順位は UAE とほぼ同じであり中国よりも低い。米国の人間開発指数(HDI)が世界3位であるのに比べ GII の低さが際立っている。

(1980年から2000年までに劇的に改善した人間開発指数。近年も少しずつ向上！)

4. 1980年～2012年の HDI の推移

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/11-G01.pdf 参照)

ここでは MENA 諸国の中からカタール、サウジアラビア、トルコ及びエジプトの4カ国を取り上げ、これに日本、全世界平均、アラブ諸国平均を加えて1980年から2012年までの HDI の推移を比較する。

いずれの国も1980年から2000年までの間に HDI は大幅に改善されており、世界及びアラブ諸国の平均値も大きくアップしている。とくに HDI の低かった国ほど改善の度合いが高い。2000年以降もサウジアラビア、トルコ、エジプトなどは毎年着実に HDI が上昇している。また世界及びアラブ諸国の平均値も同様の傾向を示している。これに対し日本あるいはカタールのように既に HDI が高水準にある国は改善の歩みが停滞している。

個別の推移をみるとエジプトは、0.407(1980年)→0.502(1990年)→0.593(2000年)→0.625(2005年)→0.640(2007年)とアップし、2010年から2012年までの過去3カ年は0.661→0.662へわずかながら改善している。1980年と2012年を比較すると指数は60%以上大幅にアップしている。同じようにトルコは1980年から2010年の30年間で50%超改善しており、過去3カ年でも0.715から0.722にアップしている。MENA の中でも上位であるカタール及びサウジアラビアの場合、1980年から2012年までの HDI 指数の推移はそれぞれカタールが0.729→0.743→0.801→0.828→0.833→0.827→0.832→0.834、サウジアラビアが0.575

→0.653→0.717→0.748→0.756→0.777→0.780→0.782であった。

アラブ諸国の平均で見ると1980年の0.443から2012年には0.652に47%アップしており、アラブ諸国のHDIは32年間で大幅に改善していることが分かる。日本は1980年にすでにHDIはかなり高かった(0.788)のであるが、1990年には0.800台を越え、さらに2007年には0.903に上昇、最近3年間のHDIは0.909(2010年)→0.910(2011年)→0.912(2012年)とわずかずつつではあるが向上している。

(「アラブの春」はHDI向上につながらなかった！)

5. 「アラブの春」前後の人間開発指数の変化

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/11-G02.pdf)

2011年にエジプト、リビア、バハレーンなど MENA 各国に民主化運動「アラブの春」の嵐が吹き荒れた。軍事独裁政権が倒れ不十分ながらも民主主義体制を樹立した国(エジプト、リビア、チュニジア、イエメン)がある一方、独裁体制が維持されたまま内戦状態となり(シリア)或いは政情不安が続く国(バハレーン)もある。ここではこれらの国々のHDIの世界ランクが「アラブの春」の前後でいかなる変化を示したか(或いは変化しなかったか)を検証してみる。

GCC加盟国であるバハレーンの場合はスンニ派の支配王家が隣国サウジアラビアの軍事的支援を得て多数派であるシーア派市民の改革運動を抑圧、現在小康状態を保って両派の対話が継続中である。2008年に同国のHDI世界ランクは41位であったが、2010年以降順位はじりじりと下がり2012年は世界48位である。またアサド政権が命脈を保っているものの内戦状態にあるシリアの場合は、2008年の108位から「アラブの春」後の2011年には世界113位に下がっており、2012年も112位にとどまっている。

軍事独裁政権が倒れたリビア、チュニジア、エジプト、イエメンの4カ国の場合、2008年の世界ランクはそれぞれ56位、91位、112位及び153位であった。2009年及び2010年は各国で異なった動きを示したが、2010年以降の順位の推移をみると、リビアは53位('10年)→64位('11年)→64位('12年)であり、また、チュニジアは81位→94位→94位、エジプト101位→113位→112位、イエメン133位→154位→160位となっている。2010年はランク付けの対象国数が例年に比べ少なかった(169か国)ため下位クラスの国(イエメン、エジプトなど)は見掛け上のランクが高くなっているが、その要素を差し引いても各国の世界ランクは低下するか横ばいにとどまっており、「アラブの春」が人間開発指数の改善に寄与したとは言えないようである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp